第四百回　青葉会　記念祝宴句会

令和元年八月二十二日（木）歌舞伎座第一部見物　十一時～十四時
仝　「花篭」にて祝宴　十四時～十六時半

〈ゲスト〉
●大谷真為（まい）（鈴木真砂女の曽孫。山田流箏曲、琴、三味線の名手）
古澤美穂（坂東巳之助の代理、マネジャー）
△中臺誠一（「繪硝子」筆頭同人、浮世絵コレクター）

〈出席者〉
伊賀山そらお　今井紀久男　大林猛　柿崎忠彦　◎川口孤舟（選者）　在間千恵
朱牟田恵洲　土谷堂哉　豊田ゆたか　中野一灯　早川允章　星田啓子　山崎亜也
山田けい子　山内天牛

〈投句〉
安部眞希子　小早健介　福島正明　宮内規雄　渡邊盛雄

〈選句のみ〉
赤田堅　安部眞希子　楠田彦十　久米五郎太　小西弘子　重枝孝岳　庄司龍平
高梨由美子　高橋敏郎　橋口隆　古田昇　松崎浩　村田くに子　山崎陽亮　山本三恵

《ウエブ句会　互選句》

十二点
△かなかなの森を大きくしてをりぬ　孤舟（猛・彦・五・恵・由・堂・誠・隆・允・昇・け・三）

十一点
◎△穂孕みの風の匂ひや千曲川　一灯（猛・孤・五・弘・孝・恵・ゆ・誠・啓・亜・三）

八点
●△夏歌舞伎はねて祝賀の青葉会　ゆたか（堅・忠・為・誠・隆・昇・陽・け）
◎△消しきれぬ歴史の汚れ星流る　盛雄（堅・紀・孤・敏・ゆ・誠・昇・亜）

七点
●碧空にひと刷毛の雲秋立ちぬ　孤舟（為・五・孝・由・堂・浩・盛）
◎鳴き砂の足裏に軋む星月夜　一灯（眞・孤・弘・千・孝・允・陽）

六点
△七輪の火の思ひ出や古団扇　そらお（猛・彦・誠・灯・亜・盛）
△四百回遺句拾ひ読む御盆かな　忠彦（堅・紀・五・堂・敏・誠）
△種牛のふぐりゆうらり草ひばり　一灯（紀・彦・恵・堂・誠・陽）

五点
◎四百回目切磋琢磨の句座涼し　眞希子（紀・孤・千・敏・陽）
△歌舞伎観て祝ぐ四百回夏句会　忠彦（堅・眞・誠・正・天）
◎掛声の絶妙の間や夏歌舞伎　千恵（紀・孤・健・ゆ・允）
●良き名跡継ぎて涼しく見得を切る　恵洲（為・弘・允・昇・く）
◎△地団太踏み鼠が見得切る夏芝居　ゆたか（孤・彦・健・堂・誠）
◎△海境（うなさか）の真闇烏賊火の数珠繋ぎ　一灯（眞・孤・恵・ゆ・誠）
蜘蛛の囲に雨滴きらめく今朝の秋　允章（紀・恵・由・灯・啓）
一刀に南瓜切れず老の夕　けい子（五・龍・正・亜・陽）
太棹の撥の響きや夏芝居　天牛（健・千・由・隆・三）

四点
△紅隈や化け鼠（ねず）踏まふ夏芝居　紀久男（忠・誠・啓・け）
自画像は毬栗頭敗戦忌　孤舟（敏・く・天・盛）
チョーンと柝の入りし心地や今朝の秋　恵洲（紀・彦・啓・亜）
◎三伏の歌舞伎は妖怪百話かな　誠一（眞・紀・弘・健）
●△野仏に手向けられたる野菊かな　允章（為・弘・誠・浩）
どうしても外せぬ仮面衣更　正明（紀・忠・龍・け）
陽を追ひて灼かれつつ湧く雲の峰　啓子（猛・孝・由・浩）
骨切りの板場の音や鱧の皮　仝（堅・紀・彦・隆）
脳髄にざらざら刻み梨を噛む　亜也（孝・啓・天・三）
あの銀河渡れるのかと問ふ子かな　けい子（猛・灯・正・く）
祝辞来る避暑地充電中の師匠より　紀久男（忠・け・盛）

三点
（ゲストにお誘いした河東節師匠）
夏ばてや掛け声かけるもいまひとつ　仝（忠・正・亜）

適齢期なぞ気にせぬ子鳳仙花　孤舟（眞・健・正）
子に詫ぶる母の真心乱れ萩（「先代萩」）　仝（紀・忠・灯）

●大ぶりの秋刀魚恋しや祈る漁　健介（為・隆・昇）
夏惜しむ鴨川近きおばんざい　堂哉（堅・紀・浩）
家元の糸で小唄や夏座敷　誠一（紀・龍・陽）
◎法師蟬のよびかけてゐる父母の墓　允章（紀・孤・浩）
大観の巨大な竜の目梅雨しとど　正明（紀・昇・け）
窓越しの白夜にみとれ眠気覚め　そらお（千・灯）
涼やかな詩吟小唄の祝ひ歌　紀久男（忠・ゆ）
納涼や歌舞伎のお化け肝冷えず　猛（健・千）
鰯雲へ届け一振り甲子園　健介（堂・け）
久に会ふ友と麦酒とナイターと　千恵（龍・浩）
爽やかや女形の若さ声の艶　恵洲（忠・天）
生身魂薬知らずの百二歳　堂哉（隆・允）

二点

●◎愛らしき子の面影や乱れ萩　ゆたか（為・孤）
終戦日茅がゆ馳走でありし頃　仝（紀・敏）
御即位を祝ふ御輿の少女笛　誠一（紀・盛）
ひたすらに続けることや雲の峰　正明（五・け）
◎羅や人唸らせる大向う　啓子（紀・孤）
熱波ごと浚ひて北に野分過ぐ　仝（孝・由）
敗戦の日の国民学校一年生　規雄（紀・弘）
天が下里芋の葉の大きさよ　亜也（恵・啓）
蓮の實を炊きて出せし茶事の飯　仝（紀・ゆ）
見物も身なりくだけて夏芝居　仝（紀・天）
◎如雨露ではとても叶はぬ慈雨来る　天牛（孤・龍）
蛇口からお湯の出て来る炎暑かな　仝（龍・く）
オペラ座の掛け声ぢかに夏歌舞伎　仝（紀・敏）
送り火や遺せし仔馬阡を超す（ディープインパクト）　盛雄（猛・三）

一点

現世の酷暑を忘れ観劇会　そらお（允）
冷酒（ひや）乾杯四百回祝ふ句会かな　紀久男（忠）
酷暑避け外国旅行映画館　猛（紀）
病妻の友を励ますどぜう鍋　忠彦（紀）
一輪も向き逆らはぬ向日葵野　仝（く）
暑き夜に夜泣きの子抱く母の背中　仝（紀）
死ぬ役の子役の健気身に入みて　恵洲（天）
老いらくの恋いたしたき藍浴衣　仝（三）
ビール注ぐ舞妓おぼこや上七軒　堂哉（正）
「はやぶさ2」小岩銜へし快挙夏　誠一（千）
谷越えに一筋太き滝明り　一灯（眞）
遠き日の残暑の記憶新たなり（八月十五日）　允章（紀）
初秋や旧友からの海の幸　正明（紀）
マンゴーや台湾海峡雷雨中　仝（紀）
ピンセット器用に使ふ夏宿題　天牛（紀）

＊　＊　＊　＊　＊

●次回青葉会
九月二十六日（木）　午后一時半～四時半　文京区民センター会議室
▲当季雑詠各自五句　投句は二句

以上　文責　紀久男

令和元年九月十五日

令和元年八月青葉会報

一　句会四百回記念企画として若手の納涼歌舞伎第一部見物してから「花篭」にて祝宴。小生世話役の「樂屋句会」の常連である御三方…真為（まい）さん（箏曲でＥテレによく出演。四歳の娘さんもＥテレにデビュー）（フルートとコラボも）。中臺さん（所得格差に憤り。株式投資で資産を成す）（落語家を支援）。そして三津五郎の遺児・巳之助のマネージャーである古澤美穂子さん（斯界切っての見識あるインテリ。読書家）をゲストにお招きしました。当初、巳之助出席する予定だったのですが、猿之助中心の第二部にも急遽出演することになり時間がなくなったものです。

会員出席は風の盆吟行以来の早川允章さんや大阪からの堂哉さんを含む１５名。投句は５名。

先ず天牛さんの乾杯の音頭は当会創立の経緯とその後の歴史そして次の節目となる五百回にむけての展望を簡潔に述べられ感銘を受けました。ゆたかさんの詩吟を皮切りに猛さんの詩吟、けい子さんの小唄「上汐」。ゲストの中臺さんの小唄三曲等々、次々に皆様御得意の唄をアカペラで披露されました。

「花篭」心尽くしの酒と「芝居御膳」に舌鼓を打っております内に時間切れ迫り、ゲストの大谷真為さんから一句と手土産を頂戴しました。「青葉会四百仰ぐ大樹かな」。ご主人大谷紹爾さん（浄土真宗本願寺）主催の盆踊りに向かわれました。…拙句「芳しき主賓宴半ばに盆踊りへ」。

ご寄贈いただきましたのは、真為さんからのお茶ネコクッキー（デカダンス・ドュ・ショコラ）、けい子さんから坂角の海老煎餅、堂哉さんから宇治抹茶煎餅とクッキー（伊藤久右衛門）。允章さん、弘子さんからご祝儀を頂きました。

回覧は①眞希子さんからのＦＡＸ。②ゲストの中臺さん手造り和綴の句集と豆本③そらおさんの３００回記念向島吟行のスナップです。

祝宴だけで句会の時間がなくなりウエブ句会となりましたことをお詫び申し上げます。また皆様のサポートに助けられ何とか行事をこなすことができましたこと感謝申し上げます。

二　関係者近詠

派出所の総出の応待夏の雲　眞希子
紫陽花の咲き満つ下の深き闇　仝
定年即介護の当番ゼラニューム　仝
遠きより隣家の安否蚊食鳥　仝
針と餌を見て解らぬか鯵掛かる　弘子
椎の葉の厚き重なり梅雨兆す　仝
しばらくは沈思の巻葉朝の蓮　仝
子育てが無心の張合ひ夏燕　仝
咲きつめて長女の強さ立葵　仝
母の日の妻の無聊を悲しめり　青史
みんみんの絶唱いのち懸けてゐる　仝
シャワー浴ぶムンクの口と思ひつつ　仝
孤り死ぬ夢に目覚めて墜栗花雨　仝
父の日とふ「名ばかり旗日」鯵を焼く　仝

―　「森の座」　―　９月号

三　山本海苔店俳句会の御紹介

ことし四月中央区長に初当選した山本海苔店副社長の山本泰人さんは「樂屋句会」のメンバーで、河東節「助六」の稽古場でよく隣合わせしました。先月紹介しました「河東節父から借りた単衣着る」の父上恵造さんが、先代社長時代「春燈」の安住敦に指導を頼んだのが始まりで、既に６００回を超しております。恵造さんとは、小生の叔父と慶應の学友だったことから親しくさせて頂いておりました。句会には鈴木真砂女らも招かれたことあり、今も有名俳人がゲストに招かれているようです。

第一回「樂屋句会」（昭和６０年４月～６月）の恵造さんの句を紹介します。

助六の下駄の響の夏めける　山本泰山子
團十郎はつたと睨み夏闌くる　仝

助六の紙衣に春愁漂えり　仝

（選者は虎屋の黒川さん・安住敦ら）

令和元年九月十五日　紀久男記

葵える身へ「喝」の支えや涼新た　盛雄
山の田に人の気配や落し水　仝
六甲の全山かなかなしぐれかな　健介
町中の田にも黄金の稲穂波　仝
文月や読めば止まらぬ読む落語　仝
文月や句帖を閉ぢるだるさかな　紀久男
ことし未だ葡萄届かず気遣ひな　仝
地謡に心洗はれ酷暑消ゆ　仝

―　「きさらぎ句会」　―　８～９月

大文字観つつ拝礼仏壇に　猛
碧天にモクモクと雲の峰　仝
天国の誘ひに乗らぬ生身魂　堂哉
生身魂般若心経諳んじる　仝
鱧切りの音響くカウンター越し　千恵
親と子の哀しき芝居残暑かな　けい子